平成30年４月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第644号

林業福島

No. 644

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

4
2018

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■森　の　中

第69回全国植樹祭 福島開催に寄せて

公益社団法人国土緑化推進機構
理事長　佐々木　　毅

全国植樹祭が、本年六月十日、福島県と当機構の共催のもと、同県南相馬市原町区雫地区の海岸防災林整備地内において開催されることとなりました。

今回で六九回目となります全国植樹祭は、戦中・戦後を通じた国土の荒廃を背景に、「荒れた国土に、緑の晴れ着を」のスローガンのもと、「国土緑化運動の中心的行事」として、昭和二五年（一九五〇）から始まりました。

当時、一五〇万㌶もの荒廃地が存在したともいわれておりますが、こうした国土緑化運動の結果、かつて荒廃していた日本の国土には豊かな緑がよみがえり、一、〇〇〇万㌶以上の人工林資源が造成されました。

その意味では、国土緑化運動は当初の目的を達したといえるかもしれませんが、その後、地球温暖化をはじめとする環境への関心が高まるとともに、水源の涵養はもとより地球温暖化防止や生物多様性保全など、森林の持つ多面的機能が見直されてきております。

一方、我が国の森林は、森林資源が年々成熟してきたのに対し、国産材の需要の減少や後継者不足によって、間伐などの手入れが行き届かず、本来の機能を発揮できていない現状にあります。

この造成された森林を適切に利用し、次世代によりよいかたちで引き継いでいくことが、現在の最大の課題となっております。国民に森林の大切さを訴える全国植樹祭は、引き続き国土緑化運動の中心行事として運動を牽引していくことが期待されております。

福島での植樹祭の開催は、昭和四五年の第二一回大会に次いで二回目となります。植樹祭は、毎回、その時代、地域に即したテーマで開催されておりますが、今回の福島大会では、「育てよう　希望の森を　いのちの森を」を大会テーマに、東日本大震災と原子力災害で甚大な被害を受けた福島県が、緑豊かなふるさとの再生を進めていく上で、シンボルとなる大会としたいとの強い思いをもって取り組んでおられると聞いております。

共同開催者であります当機構といたしましても、本植樹祭がすばらしい大会となりますよう、その成功に向け福島県とともに鋭意準備を進めて参りますので、皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

《もくじ》

とびら
第69回全国植樹祭福島開催に寄せて
公益社団法人国土緑化推進機構
理事長　佐々木　　毅…… 1
第69回全国植樹祭式典で使用する木製品と、
会場を彩る飾花を紹介します。…… 2
平成30年度県林業関係当初予算…… 3～7
普及指導員通信…… 8
森林管理署メモ…… 9
木連だより…… 10
木に触れて豊かな心を育む「木育」① 11
木材市況・ふくしま東西南北…… 12
はなしのひろば・お知らせコーナー…… 13

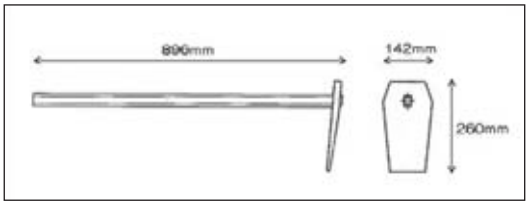
第69回 全国植樹祭 ふくしま 2018
育てよう 希望の森を いのちの森を

式典で使用する木製品と、会場を彩る飾花を紹介します。

第六九回全国植樹祭福島県実行委員会事務局
（福島県農林水産部全国植樹祭推進室内）

◇式典木製品◇

式典で用いる木製品は、豊かな森林を次の世代に継承する意味を込めて、昭和四五年の第二一回全国植樹祭において昭和天皇よりお手播きいただいた飯豊スギを使用し、「お手播き箱」、「お手播き枡」、「お手播き枡盆」、「お手播き樹種表示板」、「お手植え鍬」、「おしぼり受け」、「おしぼり受け盆」、「演台」、「演台祝辞入れ」、木製地球儀を掲示する「シンボル台」の十種類が製作されます。



御鍬（参考例：第68回全国植樹祭（富山県））

お手播き箱（参考例：第67回全国植樹祭（長野県））

◇飾　花◇

県内の高校生が歓迎の気持ちを込めて育てた花などを飾り、会場の雰囲気を盛り上げます。特にお野立て所周りは、トルコギキョウなど県内産の代表的な花きの生花で飾ります。

〈飾花一覧〉

ジニア	初夏から晩秋までの長い間花を咲かせ続けるところから「百日草」とも呼ばれ、夏花壇素材として親しまれています。花言葉は「絆」、「遠い友を想う」。	トルコギキョウ	福島県で生産される代表的な花きの一つであり、色や形状が多様です。優雅で気品ある雰囲気から切り花として親しまれています。花言葉は「希望」、「優美」。
サルビア	夏花壇を彩る代表的な品目であり、暑さや乾燥に強く、初夏から霜が降るまで楽しめます。花言葉は「尊敬」、「知恵」、「家族愛」。	マーガレット	春の到来とともに咲き誇るマーガレット。可憐な見た目と清楚な花姿で、庭をさわやかに彩ります。花言葉は「誠実」、「真実の愛」。
メランポジウム	高温多湿に強く、手入れも容易なため、夏花壇によく用いられます。黄色の小花を長期間にわたり休みなく咲かせます。花言葉は「元気」、「小さな親切」。	ペチュニア	花付きの良さ、花色の豊富さ、育てやすさなどから多くの人に愛好され、初夏から秋の草花として定番になっています。花言葉は「心の安らぎ」。
		ベゴニア	鮮やかな花色で、草丈が低くコンパクトにまとまりやすく、花期も長いため、花壇などに使われています。花言葉は「親切」、「片思い」。
		アゲラタム	丈夫で花期が長く、次々と花を咲かせながら、こんもりと大きく茂ります。花壇に植える花として広く親しまれています。花言葉は「信頼」、「幸せを得る」。
		ガザニア	花期が長く、勲章のように鮮やかな花を咲かせます。光沢のある花弁は太陽の光を受け、キラキラと美しく輝きます。花言葉は「きらびやか」、「身近な愛」。

設置イメージ

平成三〇年度県林業関係当初予算

福島県農林水産部

森林づくりの計画・調整

▼森林計画課

森林計画課は、森林計画関係（地域森林計画、市町村森林整備計画、森林経営計画、森林審議会、国有林との調整等）、森林環境税の総合調整、森林整備地域活動支援交付金事業及び森林林業関係各課の調整業務を担当しています。

■平成三十年度予算

○県総予算（一般会計）
一、四四七、二一二百万円
（対前年比　八四・一パーセント）

○農林水産部予算（一般会計）
一三六、六三七百万円
（対前年比　一一七・〇パーセント）

○森林林業関係予算（一般会計）
三〇、四七二百万円
（対前年比　九二・〇パーセント）

今年度の農林水産部の当初予算については、福島県農林水産振興計画「ふくしま農林水産業新生プラン」のめざす姿の実現に向けて、重点戦略に掲げる「避難地域における農林水産業再生プロジェクト」を始めとする九つのプロジェクトを重点的・戦略的に推進するとともに、「東日本大震災及び原子力災害からの復興」を始めとする七つの施策の展開方向を柱に編成しています。

■森林環境税を財源とする事業

森林環境基金事業

森林との豊かな関わりを未来の子どもたちへ引き継いでいくため、森林環境税を導入し、全ての県民と企業の皆さまに支えていただきながら、「県民一人一人が参画する森林づくり」に取り組んでいます。

森林環境税は、水源のかん養等の森林の持つ公益的機能を確保することが県民生活にとって重要であることから、森林環境の保全と森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成に関する施策の財源として、県民税均等割に加算する方式で納めていただいています。

納めていただいた税金は、使途が特定されることから、「森林環境基金」を設け、他の財源と区分して積立て活用しています。また、事業実施にあたっては、第三者機関である「森林の未来を考える懇談会」の意見を伺うとともに、県ホームページで事業の実施状況を公表するなど、透明で公正な執行に努めています。

平成三〇年度森林環境基金事業の当初予算額は十三億七、六一三万九千円で森林林業総室内四課一室、土地・水調整課、環境共生課、一般廃棄物課、建築指導課、高校教育課の計九課一室が担当します。このうち、森林計画課が実施する森林環境基金事業は次のとおりです。

①森林環境適正管理事業
森林ＧＩＳを活用したインターネットサイト（ふくしま森まっぷ）の運営や森林情報の受発信等　六、三四三千円

②森林環境交付金事業
市町村が地域の実情に応じて行うきめ細かな森林づくりを支援
三一六、五四三千円

③ふくしまから　はじめよう。森林との きずな事業
森林環境に関する情報発信と、森林づくり活動の浸透・拡大等
一五、四二四千円

④ふくしまの森林文化継承事業（一部）
福島県の森林文化調査、森林文化の公開体験等　四、八四九千円

⑤森林環境等調査発信事業
小学校に導入された木製家具の使用状況を調査し発信　一、三五一千円

⑥森林環境基金運営事業
森林の未来を考える懇談会の運営等
一、一五五千円

■地域森林計画の編成等

地域森林計画は、森林の持つ多面的な機能が十分に発揮されるよう、森林の保全や森林整備の目標などの基本的な事項等を明らかにするとともに、市町村及び森林所有者等に森林施業上の指針及び規範を示し、その適切な施業の確保を図るため、民有林を対象として五年ごとに十カ年の計画を策定するものです。

本年度は、県中農林事務所管内において、阿武隈川地域森林計画策定に必要な現況調査を実施します。
七、一七三千円

また、市町村が作成する林地台帳を管理・活用するための森林ＧＩＳ等のシステム整備の取組に対して支援を行います。
一四、八一四千円

■森林整備地域活動支援交付金事業

森林の多面的機能を十分に発揮させるには、間伐等の森林整備を継続的に実施する必要があります。

当事業では、持続的な森林経営の実現や、計画的な森林整備の着実な実行に不可欠な「森林経営計画」の策定を推進するため、森林所有者や森林組合、林業事業体等が実施する次の取組を支援します。

①「森林経営計画作成促進」への支援
森林経営計画の認定を受けていない森林において、森林所有者や森林組合、林業事業体等が行う森林経営計画の策定のために必要な森林情報の収集・整理や、計画区域の検討、計画参画への森林所有者の同意取得等の活動を支援します。

②「森林経営計画作成促進（経営委託型）」への支援

①に加え、森林整備に必要な森林の現地調査や路網調査を行い、その結果をもとに森林所有者に森林整備の提案を行う等、森林経営の委託契約を締結するための活動を支援します。

③「不在村者の現地立ち会い」への支援

①及び②の活動に際し、不在村森林所有者の現地立ち会いや合意形成活動を支援します。

④「森林の位置情報の確認」への支援

③に加え、ＧＰＳによる境界確定を支援します。

⑤「森林境界の明確化」への支援

地域森林計画において、境界の確認や測量に必要な森林情報の収集、境界が不明瞭な森林で行う境界の確認や測量、情報の整理・保存、市町村への情報提供等の活動を支援します。

⑥「施業集約化に向けた条件整備」への支援

施業集約化を進める上で重要となる既設路網の簡易な改良を支援します。

一〇、九八五千円

■森林環境モニタリング調査事業

森林内において放射性物質の広域的・継続的なモニタリング調査を行います。

①森林環境モニタリング調査事業

森林における汚染状況の変化等を把握するとともに、放射性物質対策を推進するために、県内各地の民有林において、森林内の空間線量率や立木等の放射性物質の濃度を調査し、併せて調査結果の評価・分析等を行います。また、これまでに表土流出防止工、被覆工及び森林整備を施工した森林において、各工種の効果についてモニタリングを行い、空間放射線量率や放射性物質の動態変化についてデータの蓄積と解析を行います。

一八〇、五九〇千円

②ふくしま森林再生推進事業

森林環境モニタリング調査地周辺の森林や森林所有者情報の精度向上を図るため、衛星画像による樹種判読や登記情報に基づき森林計画図及び森林簿情報を更新します。また、森林再生事業等を推進するため、更新した森林計画図や森林簿情報を市町村へ配布します。

六六、四一〇千円

③里山再生モデル地区放射線量等調査事業

里山再生モデル地区における森林の除染や間伐等森林整備等対策の効果を検証するため、施業前後の空間線量率や土壌・立木等の放射性セシウム濃度の測定を行います。

一二〇、〇〇〇千円

森林の整備と林内路網の整備

▼森林整備課

東日本大震災以降、本県の森林整備は停滞しており、森林の有する多面的機能の大幅な低下が懸念されます。このため、森林整備や路網整備を推進するとともに放射性物質の拡散防止を図る放射性物質対策に取り組みます。

また、平成二八年、二九年に発生した林道災害及び当年の林道災害により被災した林道施設の復旧について市町村を支援します。

■森林再生関係

原子力発電所の事故による放射性物質の影響を受けた森林の再生を図るため、間伐等の森林施業や路網の整備と、放射性物質の拡散防止を一体的に行う市町村等事業の支援と県事業の推進に取り組みます。

①ふくしま森林再生事業

四、七四七、三四九千円

②広葉樹林再生事業

九五、三七六千円

■森林整備関係

民有林を対象に、公共事業、森林環境基金により、林業事業体等が計画的に行う森林整備を支援します。

①一般造林事業（公共事業）

七一六、六〇六千円

②森林整備事業（森林環境基金）

三二五、九五八千円

③森林資源造成支援事業（森林環境基金）

六、一九八千円

■路網整備関係

森林の多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進や効率的で安定した林業経営の確立、山村地域の定住環境の整備等、森林整備の基盤となる路網の整備を促進します。

①林業専用道整備事業（県営）

三二一、八〇二千円

②林業専用道整備事業（団体営）

四九四、六九三千円

③林業専用道等改良事業（団体営）

八、一五〇千円

④森林情報活用路網整備推進事業（県営）

九三三、六二四千円

⑤森林管理道整備事業（県営）

三四三、四五〇千円

⑥森林管理道整備事業（団体営）

一四、八六八千円

⑦森林居住環境整備事業（県営）

三二一、六〇八千円

⑧山のみち地域づくり交付金事業（県営）

五三五、五〇〇千円

⑨林道改良事業（団体営）

四四、一七七千円

⑩林道舗装事業（団体営）

二七九千円

⑪林道保全整備事業（団体営）

五、一六〇千円

⑫県単林道事業（団体営）

一二、九一二千円

⑬森林整備促進路網整備事業（森林環境基金）（団体営）

一八、五四七千円

⑭間伐材搬出支援事業（森林環境基金）（団体営）

二二、九〇〇千円

■公有林・種苗関係

公有林のうち、県営林については、県有財産の造成とともに県産材の需要に応えるため、伐採収入を確保しながら、保育間伐を実施します。

種苗では海岸防災林等の造成に必要なマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ等の種子確保と、花粉の少ないスギ苗の供

給体制整備等に取り組みます。

公益社団法人ふくしま緑の森づくり公社に対して、事業実施のための資金貸し付け等を行います。

①県営林の保育管理事業　一一一、一二六千円

②育種育苗事業　八、三〇一千円

③花粉の少ない森林づくり事業　一、五九一千円

④林業種苗生産施設体制整備事業　五、九二一千円

⑤ふくしま緑の森づくり公社事業資金　七六三、八三〇千円

⑥造林推進事業（林業基盤整備資金利子助成事業）　二一、一六二千円

■林道災害復旧関係

平成二八年、二九年に被災した林道、及び三〇年に豪雨などの異常気象等により林道が被災した場合に、市町村が行う災害復旧事業を支援します。

①林道災害復旧事業（現年災）　三九二、三〇四千円

②林道災害復旧事業（過年災）　九二、六九一千円

林業・木材産業の振興と担い手確保

▼林業振興課

林業振興課は、県産材の需要拡大と林業就業者の確保・育成等により、林業・木材産業の成長産業化を図ります。また、県内で生産される林産物の安全性を確保するため、「県産材製品の安全確認」や「安全なきのこ生産」に向けた事業を展開します。

また、豊かな森林を次世代に継承することを発信するため、第四七回全国林業後継者大会を開催します。

■県産材の安定供給

県産材製品の安定供給を図るため、木材加工流通施設の整備を支援します。

■県産材の利用推進

県産材の利用を推進するため、木材利用技術の導入・普及、公共スペースへの県産材製品の設置、児童・生徒への木育活動等を支援します。

また、県産材による家づくりの普及、ペレットストーブの導入等を支援します。

◆木材加工流通施設等整備事業　一、六五六、〇〇〇千円

避難地域等において、住民の帰還を促進するための雇用の場の確保と県産材の安定的・効率的な供給体制を構築するため、木材加工流通施設の整備を支援します。

◆林業・木材産業金融の充実　八〇六、〇五七千円

①林業振興資金

②森林組合連合会事業振興資金

③木材産業等高度化推進資金

④林業・木材産業改善資金貸付金

⑤林業・木材産業改善資金管理指導費

◆木材産業活性化事業　二、〇七四千円

①木材業者登録事務

◆森林環境基金事業　一一六、二一二千円

森林資源の利用に向けた県民意識の醸成や木質バイオマスエネルギーの普及を図り、低炭素社会づくりを促進するための事業を実施します。

①ふくしまの低炭素社会づくり推進事業

②もっともっと木づかい推進事業

③間伐材搬出支援事業

④地域林業技術伝承事業

⑤ふくしまの森林文化継承事業

■林業就業者等の確保・育成

林業への新規就業の促進や、林業事業体への社会保障拡充支援、林業労働者の能力向上に対する支援など、総合的な担い手対策を実施します。

◆森林整備担い手対策基金事業　一三九、一九六千円

森林整備を担う者の福利厚生の充実及び労働安全衛生対策、技術・技能の向上に資する研修、その他森林整備を担う者の確保・育成に関する事業を森林整備担い手対策基金を活用して実施します。

①新規参入等促進事業

②社会保障充実強化事業

③林業労働者等研修事業

④林業労働安全衛生確保総合対策事業　等

◆林業労働安全衛生対策　一、五二一千円

労働災害の防止と安全で快適な職場づくりを推進し、林業労働力を安定的に確保するため、作業現場への巡回活動を実施します。

①林業労働安全衛生指導体制強化事業　等

■林産物の安全性の確保

県内で生産される林産物の安全性を確保し、経営の安定と生産の回復を図るため、木材製品の放射線量の検査、安全なきのこを生産するために必要な生産資材の導入支援、原木しいたけ露地栽培等の実証事業などを実施します。

◆県産材安全性確認調査事業　二〇〇千円

消費者の安全・安心を確保するため、製材品の放射線量を定期的に測定して安全性を確認し、その結果を公表します。

◆放射性物質被害林産物処理支援事業　六九八、八〇〇千円

①汚染樹皮処理支援業務

◆林業構造改善事業　二六、〇〇七千円

①木材利用推進事業

②特用林産振興対策事業

③特用林産振興施設整備事業

◆特用林産の振興　二七三、八一八千円

きのこ産業の振興を図るため、情報収集・栽培技術指導の業務を実施します。また、きのこ原木等の購入に伴う経費の一部を支援します。

①きのこ類振興対策事業

②安全なきのこ原木等供給支援事業

◆森林活用新技術実証事業　三三、八一六千円

放射性物質による広域汚染により、きのこ、山菜等の出荷制限やきのこ原木の供給に深刻な影響を及ぼしていることから、再生産に向けた実証を行います。

①原木しいたけ露地栽培実証事業

②広葉樹安定供給調査事業

◆福のしま「きのこの里づくり」事業

一三、六九六千円

避難区域等を含む県内において、新品種のほんしめじを活用した産地の育成を図るため、モデル地区を設定し菌床培地の供給に合わせた栽培指導を行うとともに、県内旅館等への販売促進活動を実施し、福島県のきのこ全体の風評払拭を図ります。

◆林業試験研究施設の管理運営

二〇、六四七千円

林業研究センター及び付帯施設を適切に管理運営します。

森林づくり活動の推進と安全で快適な県土の保全　▼森林保全課

森林保全課では、県民参加の森林づくり・緑化の推進及び森林病虫獣害から森林を守る森林保護、安全で快適な県土形成のための治山事業、保安林制度に基づく保安林の適正管理、民有林を開発する際の審査・指導に関する業務を担当しています。

■森林づくり活動の推進と森林保護

県民参加による森林づくり活動と緑化運動を支援するとともに、森林とのふれあいの場を提供することにより、森林を県民全体で支える意識の醸成に取り組みます。

また、松くい虫やカシノナガキクイムシ等による被害から、貴重な森林を守るための防除対策や野生動物との共生のための里山林の整備活動を支援します。

◆森林とのふれあい・緑化活動の推進

①総合緑化対策事業　一〇、三六三千円

②森林総合利用対策事業　一一八、三五一千円

③森林とのふれあい施設管理事業　九七、一七三千円

◆森林環境基金事業

①森林環境学習の森整備事業　三、五〇〇千円

②森林づくり総合対策事業　一四、四九一千円

③里山林整備事業　三一、〇〇〇千円

◆森林保護

①森林病害虫等防除事業　六八、九二四千円

■治山事業による県土の保全

治山事業は、民有保安林の維持造成を通じて、山地に起因する災害から県民の生命・財産を保全するとともに、水源のかん養、生活環境の保全・形成を図り、安全で安心できる豊かなくらしの実現を図るうえで不可欠な事業です。

平成三〇年度の治山事業は、被災地の復旧や流木対策、森林の機能強化を効果的に実施し、山地災害に対する減災対策を図るとともにコスト縮減等に積極的に取り組み効率的な予算の執行に努めます。

第15回うつくしま育樹祭（平成29年11月11日　南相馬市）

特に、復旧・復興の要となる海岸防災林造成事業や治山災害復旧事業は、着実に進展しており、今後も津波により失われた保安林の機能を確保するため、多重防御の一環として、復興・創生期間での完了を目指し、復旧をさらに加速させます。

県単独治山事業については、国庫補助事業に採択されない被災地の復旧及び予防が必要な地区のうち、緊急性や優先度を総合的に勘案し、箇所毎の優先順位を適正に定め順次執行していくこととしています。

全庁的に展開している「地産地消の推進」については、県産間伐材を利用した森林土木工法の推進や平成十四年度から導入している治山ダムの間伐材型枠工等により、木材の積極的な使用を推進してまいります。

また、森林ＧＩＳを活用し、最新の山地災害危険地情報を県民に提供することなど、ソフト対策の充実を図ることにより、防災意識の高揚や避難態勢の整備が進められ、減災効果の向上に寄与することを期待しています。

◆一般治山費（三〇年度当初）

一一、二八九、二〇七千円

①復旧治山事業（三〇年度当初）　一九〇、一一三千円

②地すべり防止事業　六一七、二八九千円

③防災林造成事業　一〇、四三〇、七三七千円

④保安林整備事業　五一、〇六八千円

◆一般治山費（県単）

三三七、〇〇五千円

①予防治山事業　一九三、七二五千円

②山地災害総合減災対策治山事業　一四二、〇五四千円

③県単治山調査事業　一、二二六千円

◆災害関連治山費　一一、二六一千円

①災害関連緊急治山事業　九、二〇一千円

②林地崩壊対策事業　二、〇六〇千円

◆県単治山費　四七七、八七〇千円

①治山施設事業（県営）

四四三、八二八千円

②治山施設事業（補助）

一〇、九二四千円

③県単災害調査事業

二三、一一八千円

◆治山災害復旧費

一、五六一、八〇一千円

■安全で快適な暮らしを守る保安林の管理と適正な林地の利用

現在、県内においては、森林面積の約四一㌫に当たる約四〇万㌶の森林が保安林に指定されています。

水源の涵養や山地災害の防備、生活環境の保全・形成等、私たちの暮らしを守るために、特に重要な役割を果たしている森林を保安林に指定するとともに、立木の伐採制限や適切な施業の実施を推進するなどして、森林の保全と機能の維持増進を図ります。

併せて、保安林等を適正に管理するため、森林保全巡視員による森林パトロールを実施します。

さらに、森林において土石を採掘したり、林地以外に転用する行為が無秩序に行われると、森林の働きが損なわれ災害が発生する恐れがあることから、林地開発許可制度に基づき審査や指導を行い、開発規模が大きい場合などは、有識者の意見を聴くために森林審議会森林保全部会を開催します。

①森林保全管理事業　七、三三五千円

②保安林整備委託事業

一三、九一四千円

③保安林整備管理事業

一四、七〇〇千円

全国植樹祭の開催

▼全国植樹祭推進室

全国植樹祭推進室では、緑豊かなふるさとの再生を目指し、復興に向け力強く歩む本県の姿及び国内外からの支援への感謝の気持ちを広く発信するため、平成三〇年六月十日に第六九回全国植樹祭を開催します。

本県は、「森林文化のくに・ふくしま県民憲章」を制定するとともに、森林環境税を導入し、森林環境を適正に保全するための森林整備の推進や県民一人一人が参画する新たな森林づくり活動の推進など、緑あふれる県土づくりに努めてきました。

こうした中、東日本大震災の大津波により、海岸防災林の六割が流出し、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故により、森林を取り巻く環境が大きく変化し、森林と人との関わりが薄れつつあります。このため、より一層の県民参画による森林づくり活動を推進するとともに、林帯幅を広げた防災機能の高い海岸防災林の整備や放射性物質の影響を受けた森林の再生に取り組んでおり、全国植樹祭は、東日本大震災と原子力災害で甚大な被害を受けた本県が、緑豊かなふるさとの再生を進めていく上でシンボルとなる大会となります。

本年度は、いよいよ本番を迎え、式典行事では、大会の開催理念や大会テーマ「育てよう　希望の森を　いのちの森を」を伝えるとともに、国内外からの支援に対する「感謝」と「緑豊かなふくしまの未来」を表現して、広く「ふくしまの森林」を発信し、植樹行事では、未来につなぐ希望の森林づくりを進めるため、会場を海岸防災林に設け、本県の復興を強く印象付けるものとします。

また、国内外からの招待者を迎えるに当たり、安全で円滑な輸送を行うとともに、本県の魅力をＰＲするため、会場に各種展示、物産販売等を行うおもてなし広場を設けます。

さらに、多くの県民が全国植樹祭を体感できるよう、ふくしま県民の森にサテライト会場、県内四市にＰＲ会場を設け、式典の放映や各種イベント等を実施します。

◆全国植樹祭開催事業

四二一、五四九千円

第69回全国植樹祭ふくしま2018カウントダウンスタートセレモニー
（平成29年11月22日開催　郡山市「JR 東日本 郡山駅」）

普及指導員通信

県産木材利用の推進のため研修会を開催しました

福島県県北農林事務所
林業普及指導員　小野田　義　宏

市町村では、公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律に基づき市町村方針を定め、公共施設の木造化・木質化や公共事業での木材利用を推進することとしていますが、すべての公共施設で木造化等が進んでいる訳ではありません。

これは、市町村の公共施設の建替時期のほか、東日本大震災の影響で新規に建設する役場庁舎など防災時の拠点となる建物についてはRC造を検討しているなど、木造建築への理解不足が原因のようです。

市町村の林業を担当される皆さんは、林業の経験はほとんどなく、今後、公共施設の木造化等を進めるためには、木材や林業の実際の現場を訪問し肌で感じていただくことが重要と考えました。

そのため、普段訪れる機会がない原木市場と製材工場の２箇所を現地研修先として選定し、市町村の担当者等を対象とした研修会を開催しましたので、報告します。

まず、ふくしま県産木材利用県北地方連絡会議の中で、県北地方を中心に前年度からの事業の実績と事例集などを利用しながら、木造公共施設の建設の際に市町村で利用可能な事業を紹介しました。

現地研修では、最初に有限会社福島原木センターを訪問しました。

同社は年間約30千㎥の取扱いが有り、そのほとんど、９割超は福島県産の木材です。

代表取締役で林業普及指導協力員の佐藤政俊氏より、構内をめぐりながら、それぞれの木材の用途や利用先、現在の木材の市況や搬出適期などの講話をいただきました。

次の研修場所である吾妻林業株式会社は、年間約20千㎥の県産原木を消費している県北地方でも有数の製材工場及びチップ工場です。

工場長の吉田氏より、ツインバンドソー等の製材機械の説明を受けながら、施設を見学しました。

研修終了後、市町村の担当者からは、とても良い機会になった、今後は、高性能林業機械での伐採作業も見学したいとの意見もいただいたところです。

今後も、市町村担当者などの研修内容のニーズを探りながら、県産材利用拡大に向けた研修会を開催していきたいと思います。

木材市場での研修状況

製材工場での研修状況

森林管理署メモ

南会津地域における生物多様性保全の取組

会津森林管理署
南会津支署

南会津支署が国有林を管轄する地域（南会津町（南郷、伊南、舘岩の旧三村。旧田島町を除く。）、只見町及び檜枝岐村）は緑豊かな手つかずの自然が残されており、福島県だけでなく新潟県の水源にもなっているほか、管内の国有林の大半が尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園などの自然公園、奥会津森林生態系保護地域などに指定されています。このため、当地域では森林が自治体の施策や地元住民の生活と密接に関わっています。檜枝岐村は村の面積の約四割が尾瀬国立公園に指定されており、只見町は二〇一四年にユネスコエコパークに登録されています。豊かな自然が各自治体のシンボルとなっており、観光資源としても重要な意味合いを有することから、当支署では森林整備と並んで生態系保全の取組にも力を入れています。その一部をご紹介します。

只見町では昨今、カシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」という。）という昆虫がナラの木の幹に穴を開けて病原菌を運ぶことで木が枯れてしまう「ナラ枯れ」が蔓延しており、国有林でも被害が確認されています。当支署ではカシナガの飛散を防ぎ被害の拡大を食い止めるため、国有林内でおとり丸太によるカシナガの誘引捕殺を行っています。これは、殺菌剤を樹幹に注入した複数の丸太（ナラ）に、カシナガが好むフェロモンを設置してカシナガをおびき寄せ（誘引）、丸太に入り込むカシナガを殺菌剤の効果により殺す（捕殺）というものです。カシナガが侵入した穴の数（爪楊枝が刺さる穴をカシナガの侵入とみなしてカウント）により誘引捕殺数を推測し、効果を検証します。この取組には毎年、山形県林業試験センターの齋藤主幹のご協力をいただいており、実施箇所の選定などについてアドバイスをいただいています。齋藤主幹からは、一定の蔓延防止効果が認められるとの見解を得ています。平成三〇年度以降も引き続き実施し、「自然首都」を標榜する只見町の生態系保全に貢献していきたいと考えています。

また、尾瀬国立公園ではニホンジカがその数を増やしており、平成二〇年頃から尾瀬の看板ともいえるニッコウキスゲをはじめとする高山植物が食べられる被害が拡大しました。南会津支署では、平成二六年から尾瀬国立公園内の福島県側に所在する大江湿原に総延長約三・五キロメートルのシカ柵を設置しています。平成二九年度にはシカの侵入防止効果を高めるため、シカ柵を更に一〇〇メートル延長しました。設置当日は、尾瀬国立公園の生物多様性の保全再生等を目的に設立された「南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会」の呼びかけにより、地元檜枝岐村、尾瀬保護財団などの協議会構成員のほか、ボランティアの方や環境省・県の関係者、南会津町議会や昭和村の方などにも参加いただき、総勢四〇名以上で設置作業を行いました。尾瀬の自然を守っていく上で大きなステップになったと考えており、今後も、大江湿原の豊かな自然の保護に協力していきます。

齋藤主幹によるおとり丸太の説明

防鹿柵延長設置作業に40名以上が参加

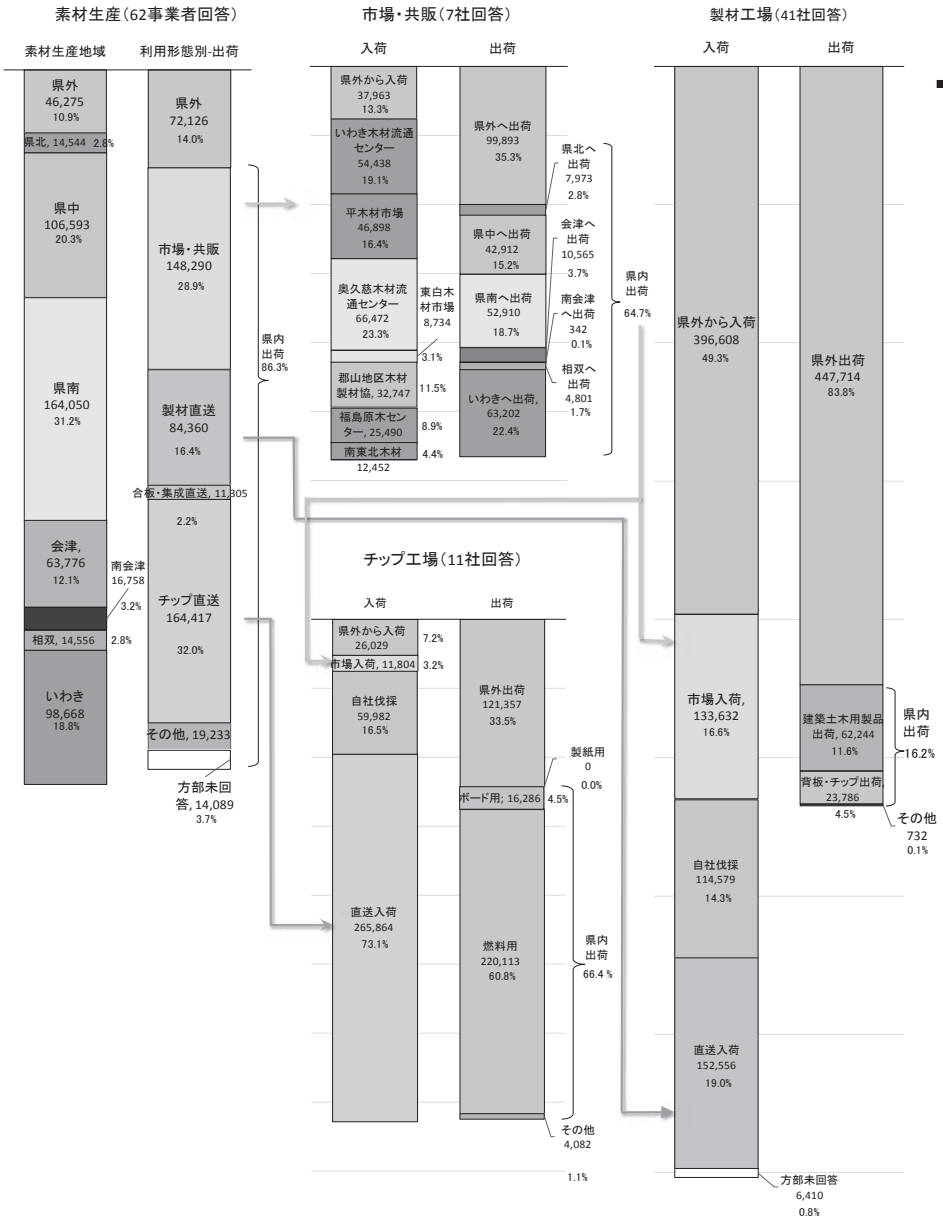
団体のページ

木連だより

木材（原木及び製品等）流通調査結果について

福島県木材協同組合連合会では、素材原木、製材品、チップ製品の安全・安心の確保に向けて、放射性物質対策をより有効に講じるため、福島県内の素材原木及び製材品・チップ製品の流通の実態をアンケート調査等により明らかにしました。

この調査結果を流通全体図で表すと下図のとおりです。



[調査結果のポイント]

- 素材生産地域は、県内が89％、県外が11％となっている。
- 素材出荷は、製材工場・チップ工場等へ50％、市場・共販へ29％、県外へ14％となっている。
- チップ工場の素材入荷は、県内からの直送が73％となっている。
- 製材工場の素材入荷は、県内から51％・県外から49％であり、県内入荷のうち直送入荷が38％、市場等からの入荷が33％となっている。
- 製材工場の製品は、県外出荷が84％となっている。

木に触れて豊かな心を育む「木育」①

北海道から、ひろがる「木育」

公益社団法人北海道森と緑の会

今月号から、木に触れ、木の良さを知ることで豊かな心を育む「木育」について、シリーズで掲載します。一回目は、「木育」発祥の地である北海道から、「木育」の取組についてご寄稿をいただきました。

木の砂場で木と触れ合う

平成十六年三月、民間と行政によるプロジェクトチームによる議論のもと、新たに「木育」という言葉が生まれました。「木育」とは、子どもから大人まですべての人が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取組であり、子どもの頃から木を身近に使うことを通じて、人・木・森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです。

この「木育」推進のため、北海道庁は、平成十七年度「木の砂場」等の遊具を体験させる「木の遊園地」やワークショップ、活動フィールド「げんきの森」の認定等を手始めに、平成二二年度から木育活動の企画立案や実践を担う人材として「木育マイスター（平成二九年度末二二四名）」を養成してきました。また、平成二六年度には民間との協力により、東日本大震災被害地へ希望のメッセージを添えた「きぼう（道産材の木棒）のプール」の贈呈を開始、現在は、森林づくりや木づかいの一体的なイベントとして、「北海道木育フェスタ」開催等の施策を実施しており、木育活動は各地に広がっています。

北海道の「木育」は、民間の企業や団体・木育マイスターと行政が連携した地域の協働作業です。「あれも木育・これも木育」と表するように、木のおもちゃや木材利用に止まらず、森林づくりから木づかいの取組まで幅広く、地域毎の多彩な取組が生まれ、「木育事例集」にまとめて紹介されています。

木育事例集　7

当会としても、緑の募金や森林基金を活用した森づくりや普及活動を始め、国土緑化推進機構と共催した「森の教室」での苗木づくり、大型イベントでのブース出展や道産材で建てられた児童図書館のほか道の駅等で、市民や親子を対象に、木とのふれあいを深める「木育ひろば」等を開催し、緑の募金と併せて木育推進に取り組んでいます。実施にあたっては、木育マイスター・団体・行政等の協力のもと、参加者の五感を培う体験の提供に努め、特に、マイ箸づくりやカスタネットづくり等は好評の企画となっています。

北海道から始まった「木育」は、木や森との関わりが希薄になっていた日常生活を見直し、つながりをキーワードに、森林・林業・教育・子育て等、多様な主体が、人が木と共存できる社会づくりを目指していきます。

再び、森を作る

木材市況

十二月の原木市場への入荷状況は、前月比二パーセント減（前年比五パーセント増）の二六、五二六立方メートルとなっている。

販売量は、前月比八パーセント減（前年比一パーセント増）の二五、五一八立方メートルとなっている。

平成二九年一～十二月の取扱量計は、入荷量は前年比六パーセント増の三〇六、一七一立方メートル、販売量は前年比五パーセント増の三〇二、九〇五立方メートルとなっている。

一月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（１月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（8～10）	0	（0～0）		9（8～9）	0	9（8～10）	0
		10～14		並		12（11～12）	0	（0～0）		11（11～12）	△1	12（11～12）	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	13（12～14）	0	11（11～11）	0	12（12～12）	△1	12（11～14）	0
				並	ヒノキ	20（15～24）	0	（0～0）		15（15～15）	0	17（15～24）	0
			6.00	並	スギ	16（15～17）	0	11（10～12）	0	16（16～16）	0	15（10～17）	0
				並	ヒノキ	30（25～35）	0	（0～0）		20（17～24）	△1	25（17～35）	0
		20～28	3.65	並	スギ	15（11～21）	3	11（10～12）	0	12（12～12）	0	13（10～21）	1
			4.00	並		12（11～13）	0	12（12～12）	0	12（12～12）	0	12（11～13）	0
			4.00	並	アカマツ	9（7～11）	0	（0～0）		10（9～10）	△1	9（7～11）	△1
			1.80	並		8（5～11）	0	12（12～12）	0	7（6～7）	0	8（5～12）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		28（28～28）	0	28（28～28）	0
				並	米マツ	（0～0）		30（30～30）	0	30（29～30）	0	30（29～30）	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		28（27～28）	0	28（27～28）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～0）		16（16～16）	0	26（25～27）	0	23（16～27）	0
パルプ用材				並	マツ	6（6～6）	0	（0～0）		5（5～5）	0	6（5～6）	0
				並	広葉樹	9（9～9）	0	（0～0）		6（6～6）	0	8（6～9）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	（0～0）		8（7～8）	0
	16以上		並	カラマツ	（0～0）		10（9～11）	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

二つの米沢街道（栗子峠と大峠）

会津農林事務所　宗形陽幸

平成二九年十一月、東北中央道福島大笹生ＩＣ～米沢北ＩＣの間が開通し、福島・米沢間の所要時間が約二十分短縮するとともに、栗子峠の冬期間の通行の安全性と利便性が大きく向上することとなりました。

福島～米沢間、米沢～会津間の街道は、ともに「米沢街道」と呼ばれ、福島～米沢～会津を結ぶ歴史ある道です。

福島から米沢への道は、古くは福島市庭坂から板谷峠を経由して米沢へ抜ける「板谷街道」で、現在の山形新幹線のルートに近いものでした。明治時代に県令（県知事）三島通庸が難工事の末に「万世大路」を開き、栗子峠が主要なルートとなりました。以後、昭和初期、昭和三〇年代の新道開設を経て、東北中央道は四代目にあたるそうです。

一方、江戸時代までの会津若松・喜多方から米沢へ向かうルートは、北塩原村檜原からまっすぐ北上して檜原峠を越えるものでしたが、こちらも明治時代に三島通庸が「大峠」（旧大峠）に牛馬車の通行が可能な「大峠道路」を開いたことで、大峠が「米沢街道」の主要ルートとなりました。現在では、バイパス化され急カーブもなく快適にドライブを楽しむことができます。

二つの「米沢街道」は、ともに「鬼県令」と呼ばれた三島通庸の強引な政策と、それに反対した地元住民たちの大きな負担の元に整備された背景があります。通行の際には先人たちの苦労を偲びつつ、安全運転に努めたいと思います。

会津と米沢を結ぶ大峠トンネル

はなしのひろば

乾　杯

いよいよ桜の蕾が膨らみ始めてきた。身に纏っていた冬のコートを片付け、また新しい春を迎えたようで思い切り深呼吸をしてみる。体の中で縮こまっていた気や心が春の気で膨らんでいく。春の匂いもまたいい。

ところで、四月は、お花見や歓迎会の季節。お酒を飲む機会が増えるというもの。その宴に入る前の「乾杯」はつきものだ。何気なくいつもしているこの行為、実は中世ヨーロッパの時代に、お酒には悪魔が宿っていてそのまま飲むと悪魔に憑りつかれる、と信じられていたことから、グラスを合わせて音を立て悪魔を追い払うということから始まった。

しかし、なぜお酒には悪魔が宿っていると思ったのだろう。おそらくその当時、まだ醸造の技術も進んでなく悪酔いをする中世人が多く、これは悪魔の仕業に違いない、と思ったのかも知れないが、悪魔払いまでして飲みたいというには、それなりの「酔の美学」があったのだろう。

一方、日本では、自然への敬意を示したお酒造りそのものが神事である。日本人の暮らしには八百万の神様がいて、「お神酒」を始め、お酒は人と神様を取り持つと考えられてきた。江戸時代からの清酒は、清い酒なので悪魔の立ち入る隙はない。

この乾杯を「地元のお酒（日本酒、焼酎、ワイン等々）で」と乾杯条例を決めている地方自治体は今や一〇〇を超える。常滑市、波佐見町（長崎県東彼杵郡）や喜多方市は地元産の酒器で乾杯を推進する条例を施行している。が、条例は条例として、乾杯は、やはり喉ごしのいい麦酒が圧倒的に人気だという。

何はともあれ、高らかにグラスをあわせ、悪魔を払い、宴がいい時間となりますように「乾　杯！」。

（都）

表紙の写真

「森の中」

第32回ふくしま緑の写真コンクール特選
受賞者　田子保浩さん（いわき市）
撮影場所：只見町

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一〇八円）

お知らせコーナー

平成30年度 一般財団法人福島県林業会館 フォレスト助成金（協賛）事業の募集要項

1．趣　　旨　一般財団法人福島県林業会館（以下、林業会館という）は公益事業としてフォレスト助成金（協賛）事業を募集します。

2．総　　額　5,000千円

3．募集事業の内容

（1）対象事業
イ．森林の整備　ロ．木材の利活用　ハ．特用林産の振興　ニ．森林・林業教育学習
ホ．森林とのふれあい推進　ヘ．森林・林業に関するその他必要と認める事業

（2）事 業 費
一事業あたりの助成金（協賛）額は、原則として20万円以内です。

4．助成（協賛）対象者

（1）県内の林業に携わる県内所在の団体であること
（2）交付条件を遵守することが確実であること
（3）交付金によって目的事業を実施することが確実であること

5．申請方法

（1）申　請　手　続　事業の目的、内容、交付申請額を福島県林業会館事務局まで提出する。
詳細は事務局まで電話でお問い合せください。
（2）事業の実施期間　平成30年４月１日から１年以内
（3）受　付　期　間　平成30年４月２日から５月末日まで

6．事業の採択決定　林業会館が設置する「フォレスト助成金審査委員会」で選定します。

7．応 募 先　〒960-8043　福島市中町５番18号　一般財団法人福島県林業会館事務局あて
TEL・FAX 024-522-2407

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ **GP-35B グラップルプロセッサ**

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新のGP-8コントローラを搭載
・5.7インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
・A,B,C,Dの4コード毎に4種類、合計16種類の測長設定値
・樹種を4種類登録でき、個別に材長調整値の設定が可能

新開発のスタッドローラ(オプション)
・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンス

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
www.iwafuji.co.jp

（北関東支店） 福島県郡山市八山田5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（支　　店） 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

林業福島 四月号 通巻第六四四号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成三十年四月一日発行（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ　TEL. 03(6740)7777
平日 9:00～17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional
BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional
GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR
刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100
破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字薪蟻塚 108-1